

Con-Tech#

ひょうご

兵庫県まちづくり技術センターだより

49号

Jan. 2017





平成 29 年新春メッセージ

兵庫県知事

井戸敏三

新年あけましておめでとうございます。

近年の世界協調の流れが、今年、大きく変わる可能性があります。特にアメリカの新体制の動きやイギリスのEU離脱交渉、原油等資源価格の動向、これらに伴う為替の不安定化などが懸念されます。先行きの不透明感が高まる中、いかなる情勢の変化にも対応できるよう、足元を固めなければなりません。

国内では、少子高齢化に対応した社会システムの構築が待ったなしの課題です。日本全体の活力を低下させる東京一極集中にも歯止めをかける必要があります。

人口が減少し、少子高齢化が進もうとも、安定し、活力を保ち続ける地域を創っていかねばなりません。地域創生の取組を軌道に乗せていくことが今年の県政の大きな課題です。

第一は、安全安心の確保。福祉、医療の更なる充実により、2025年問題に挑み、安心して暮らし続けられる地域を創りましょう。防災・減災対策を着実に推進し、来るべき災害への備えに万全を期しましょう。

第二は、県民の活躍促進。高齢者、障害者、女性、若者などすべての県民が能力を発揮できる環境を整えるとともに、教育の質を高め、ふるさと人材の確保を進めましょう。

第三は、産業の活力増進。更なる企業集積に取り組み、新事業展開や起業を後押ししましょう。また、農林水産業を成長産業と位置づけ、イノベーションを興しましょう。

第四は、交流の拡大。交流人口の増加で地域に賑わいを生み出しましょう。兵庫五国の多様な資源に磨きをかけ、国内外から人が集う地域を創りましょう。

1868年の兵庫県発足から150年の節目の年が近づいてきました。

今こそ、これまでの兵庫の歩みを振り返り、次の一步の足がかりとなる新たなビジョンを描くときです。そして、県民の皆さんの夢と地域への思いを結集し、兵庫の未来を切り拓く。さあ、新しい地域づくりのステージへ、ともに一歩を踏み出しましょう。

ふるさとの 発展めざす 地域づくり 一人ひとりの 決意に依らん



新年のごあいさつ

公益財団法人 兵庫県まちづくり技術センター

理事長 田中 稔

新年あけましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、お健やかに輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

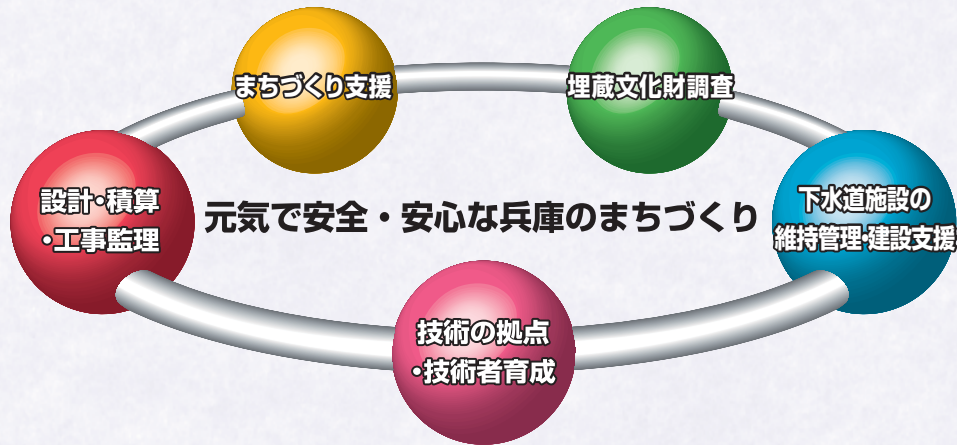
旧年中は、兵庫県まちづくり技術センターの事業推進に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

また、昨年11月22日に執り行いました設立20周年記念式典には、多くの方にご臨席賜りましたことを重ねてお礼申し上げます。

21年目が新たにスタートしました。今まで長年培って参りました技術力と専門的なノウハウを活かすとともに、記念式典の基調講演でいただいたメッセージや記念フォーラムでの提言を業務に反映し、兵庫創生の実現をサポートできるよう、「安全・安心の確保」、「活力あふれる地域づくり」、「技術者の育成」に取り組んでまいります。

この目標に向かって、役職員一丸となり、今後とも自治体のニーズに的確に対応し、皆様に信頼され、また、満足してもらえる総合的な行政支援機関としての役割を果たしてまいりますので、引き続きご指導を賜りますとともに、積極的にご活用いただきますようお願い申し上げます。

高度な技術力を有する公益財団法人として 兵庫の社会基盤整備を総合的に支援します。
～ 効率的な社会基盤の整備・管理、開発と文化財保存の調和を実現 ～



設立目的

兵庫県及び県内の市町の建設技術の向上と公共事業の効率的な推進を図るとともに、土地地区画整理事業、まちづくり活動等の支援、流域下水道事業及び流域下水汚泥処理事業に係る維持管理等を行うことにより、より質の高い社会基盤づくり及びまちづくり並びに生活環境の改善及び公共用水域の水質の保全に寄与することを目的とする。

シンボルマーク



Construction Technology Center for Regional Developmentのイニシャル「CTC」を上下のウェーブで囲んでいます。このウェーブは、南北を海に面した兵庫県の姿とともに“新しい風”と“新しい波”を表し、兵庫県まちづくり技術センターの発展的な姿を象徴しています。

◆ ◆ も く じ ◆ ◆

設立20周年記念式典

～兵庫創生の実現をめざして～

「安全・安心の確保」	「活力あふれる地域づくり」	「技術者の育成」	1
------------	---------------	----------	---

事業レポート

豪雨災害からの早期復旧

● (主) 三木穴栗線粟田橋	災害復旧工事	北播磨県民局加東土木事務所	3
----------------	--------	---------------	---

工事監理日誌

災害復旧・復興支援／防災減災対策

● 災害関連緊急急傾斜事業			
徳尾谷上地区急傾斜地崩壊対策工事	丹波事務所	7	
● 海岸緊急防災・減災対策事業			
尼崎西宮芦屋港 鶴町地区防潮堤耐震対策工事	阪神事務所	8	

社会基盤の整備、開発と文化財の調和

まちづくりと文化財調査の総合支援

● 中播都市計画事業JR網干駅西南土地地区画整理事業	まちづくり推進部	9
● 鍛冶田遺跡の発掘調査	埋蔵文化財調査部	10

景観まちづくり

やってみよう!! ひょうごの景観まちづくり

● 第4回ひょうご景観まちづくり交流会	まちづくり推進部	11
---------------------	----------	----

下水道事業

維持管理に関する技術やノウハウを伝授!

● 下水処理場維持管理セミナー	下水道事業部	12
-----------------	--------	----

～ 兵庫創生の実現をめざして ～

センターは、「兵庫創生の実現をめざして」をメインテーマに、平成 28 年 11 月 22 日に兵庫県公館で設立 20 周年記念式典を開催しました。

記念式典では、センター 20 年の歩みを振り返るとともに、引き続き、県・市町を積極的に支援し、兵庫創生の実現をサポートしていくことを確認しました。

さらに、神戸大学名誉教授 沖村孝氏の基調講演、社会基盤の専門家等による記念フォーラムでは、兵庫創生の実現に向け、センターに期待する役割について提言がなされました。

＊ご祝辞をいただいた皆様＊



兵庫県副知事
荒木 一聡 様



市長会会長
小野市長
蓬 菜 務 様



兵庫県議会議長
藤田 孝夫 様



丹波市長
辻 重五郎 様

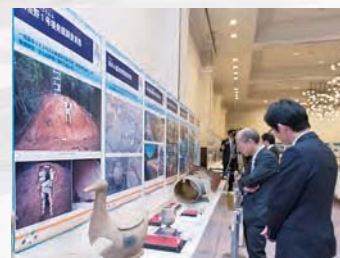


記念式典の概要

- 開催日 平成 28 年 11 月 22 日 (火) 13:30 ～ 16:40
- 場 所 兵庫県公館 大会議室
- 出席者 約 300 名
- プログラム
 - ◆ セレモニー 兵庫芸術文化センター管弦楽団
 - ◆ 来賓祝辞
 - ◆ 記念ビデオ 「20 年のあゆみ」 放映
 - ◆ 基調講演 「安全・安心な兵庫の基盤づくりに向けて」
神戸大学名誉教授 沖村 孝 氏
 - ◆ 記念フォーラム 「兵庫創生の実現をめざして」



オープニング



式典会場でのパネル展示

基調講演

「安全・安心な兵庫の基盤づくりに向けて」

神戸大学名誉教授 沖村 孝氏

基調講演では、「災害危険度の増大」、「異常気象」、「人口減少及び高齢化」、「社会基盤施設の老朽化」といった現在の自然・社会的背景は、すべて安全・安心と大きく関係しており、その対策として、防災・減災から見た兵庫の基盤づくりに向けた5つのメッセージが提言されました。



防災・減災から見たひょうごの基盤づくりに向けて5つのメッセージ(骨子)

(1)三本の柱(ハード、ソフト、ヒューマン)で進めよう安全と安心

- 安全・安心はコストでは評価できない
- 緊急時には住民の連携が人のいのちを救う

(2)日常時の交流・物流・連携を支える基盤整備

- 社会基盤による毎日の安全・安心が、緊急時の安全・安心につながる
- 道路のネットワークが減災につながる

(3)緊急時に活躍できる救命道路の整備・強化

- 日常時、道路はいのちや生活、産業をつなぐ道
- 緊急時、道路はいのちの安全と復旧・復興に必要な舞台装置

(4)日常時の点検で守ろう社会基盤(インフラ老朽化対策)

- 壊れてから直すのではなく、日常時点検と早期対応が重要
- 先端的な点検技術開発と維持管理システムの構築

(5)安全・安心な基盤整備から生まれる地域づくり・人づくり

- 交流からはじまる地域のあるものさがし
- 高齢者が支え手になる生きがいづくり

記念フォーラム

「兵庫創生の実現をめざして」

記念フォーラムでは、社会基盤やまちづくりを専門とする学識者、自治体の長、行政OBの方にお集まりいただき、センターが20年間に行ってきた取り組みを振り返るとともに、県・市町が抱える課題について議論し、今後、センターに対して期待する役割について、具体的な提言がなされました。

今後のセンターへの提言(骨子)

- 1.顧客満足度を最大化する能動型・提案型事業の展開
- 2.兵庫県と市町をつなぐ技術拠点として、戦略的な機能を果たす

◆安全・安心の確保

- ①防災・減災対策における新技術の積極的な導入
- ②インフラ老朽化対策の継続実施とコスト削減策の検討
- ③公共下水道の効率的な管理支援と管理手法の提案
- ④最先端研究成果を社会へ実装する「仕組みや場」の創出
- ⑤官民OB技術者が活躍する仕組みづくり

◆活力あふれる地域づくり

- ①景観形成等を通じたまちの魅力づくり
- ②市町の埋蔵文化財発掘調査事業への支援拡大

◆技術者の育成等

- ①インフラ整備・管理の魅力発信
- ②将来を担う若手技術者が活躍する場の創出
- ③体系化したカリキュラムづくり

コーディネーター



神戸大学大学院 教授
森川 英典氏

パネリストの皆様



神戸大学 名誉教授
沖村 孝氏



流通科学大学 教授
今西 珠美氏



多可町長
兵庫県町村会会長
戸田 善規氏



兵庫県職員OB
ひょうご橋守隊代表
原口 和夫氏

PROJECT 49 [主要地方道 三木宍粟線「栗田橋」の供用開始] 北播磨県民局加東土木事務所



みきしそうせん あわ た ばし 三木宍粟線「栗田橋」 豪雨災害からの早期復旧



主要地方道三木宍粟線「栗田橋」は、平成25年9月の台風第18号による豪雨で損傷を受け通行止めになりましたが、平成28年7月に架替工事が完了。

7月9日、開通式を行い、供用しました。

仮橋を架けずに工事を進めるなど、地元から求められていた早期復旧へと全力を注いだ加東土木事務所の取り組みについて平井住夫所長と宮垣済道路第2課課長補佐にお話を伺いました。



復旧とともに
安全性の向上にも
取り組みました

加東土木事務所
平井 住夫 所長

●●● 地域・広域交通の要「三木宍粟線」

三木宍粟線は三木市を起点に、小野市、加西市、福崎町、姫路市を経て、宍粟市を終点とする1日約14,000台が通行する主要地方道です。播磨地域の生活道路としての機能を有するとともに、中国自動車道などを補完する広域交通を担う道路であり、さらには、災害時の緊急輸送道路に指定されている重要な幹線道路です。「栗田橋」はこのうち、小野市で一級河川加古川を渡る交通の要所ともいえる橋梁です。

●●● 台風被害で全面架け替え

平成25年9月1日～4日の降雨に続き、9月15日～16日の台風第18号の豪雨による河床の洗掘に伴い、栗田橋の中央部の橋脚一基が約30cm沈下し、その影響で上部工も損傷しました。復旧方法として損傷部分だけを復旧することも検討しましたが、被災した旧栗田橋は昭和9年に建設されており、現在の道路構造令や河川管理施設等構造令に適合していませんでしたので、改良復旧工事として全体を架け替えることに決まりました。



●●● 仮橋なしでの工事へ

通常、この種の工事では、仮橋を架設し復旧工事を進めることが多いと思います。今回、地元の小野市や地域住民の方からは「とにかく早く復旧してほしい」という強い要望を受けました。仮橋を設けると本体完成までの工期が長引くほか、「仮橋を通行する」という不便な状況を長期間、地元の方に強いることになります。そのため、土木事務所として、仮橋を設けず全面通行止め状態で橋を架け替えることを決め、早期の完成に全力を注ぎました。

●●● 早期開通の3つのポイント

「栗田橋」は平成28年7月、橋長250mの橋の架け替え工事としては短期間の2年10ヵ月で開通しました。早期に開通できた要因としては①仮橋を設けなかったこと②橋脚を2基にしたこと③橋梁への取付道路の工事がスムーズに進んだこと一が挙げられます。特に③の取付道路工事に伴う用地買収では小野市役所の多大な協力のおかげで、早期に住民の理解を得ることができ、順調な工事につながりました。



2本の橋脚が特徴的な新しく架け替えられた「栗田橋」

被災状況と復旧工事の事業概要

平成25年台風第18号の豪雨により小野市では最大24時間雨量が177mmを記録。一級河川加古川は、断続的に増水し、栗田橋は橋脚が沈下する被害を受けました。



増水時の栗田橋上流側の状況



被災状況

〈復旧工事の事業概要〉

事業箇所：小野市住永町～粟生町

事業内容：橋長L=250.0m

車道幅員W=6.5m（歩道幅員2.5m）

橋梁形式：3径間連続鋼床版箱桁橋

事業期間：約2年10ヵ月 事業費：約18億円



周辺への影響を 最小限に 抑えました

加東土木事務所道路第2課
宮垣 済 課長補佐

●●● 橋脚が15基から2基に

新しい「栗田橋」の特徴はまず、橋脚の数です。通常、この規模の橋梁では4～5基の橋脚数で検討するのです

が、短期間で橋梁工事を完成させるために2基に決定しました。旧橋は橋脚が15基でしたが新橋では橋脚を2基に減らすことで、通常5%以下にすべき河積阻害率が11%強から2.4%まで低下しました。流水がスムーズになり、橋の損傷の原因となる洗掘の可能性が下がりました。

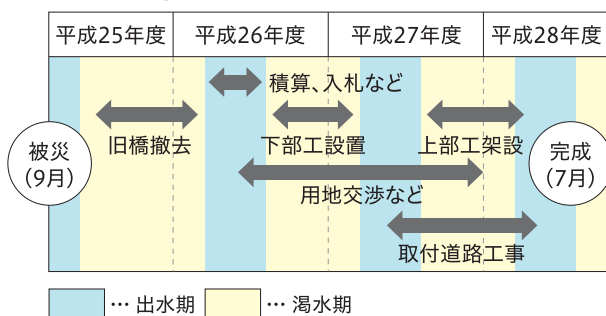
もう一つの特徴は桁高です。当然のことですが橋脚を減らすと支間長が長くなるため、桁高が高くなります。しかしそれでは、取付道路が被災前よりも高くなり、道路沿いの家屋からの利用が難しくなります。そこで、桁高を低くするために3径間連続鋼床版箱桁橋を採用しました。鋼床版箱桁橋としたことでスレンダーな橋梁となりました。

PROJECT 49 [主要地方道 三木宍粟線「粟田橋」の供用開始]

●●● 早期復旧は時間との戦い

被災から3ヵ月の期間で調査・設計を行い、災害査定を受けなければならず、時間に追いかける日々でした。また、旧橋撤去工事や新橋の工事発注、県議会の承認を得るためのスケジュール調整などの業務も発生しました。並行して、一級河川加古川は国土交通省の管轄のため、国の許可も必要で、その資料作りにも苦労しました。時間がない中だったので各書類の再提出がないよう、段階毎に綿密な打ち合わせをして正確な資料作りに力を注ぎました。このような中、兵庫県まちづくり技術センターによる査定設計書の作成、実施設計書の積算、工事監理の支援を得たことで、負担を軽減することができました。

■復旧工事のスケジュール



旧橋撤去(下部工)



新橋の橋桁閉合

●●● 小野市役所の協力・支援

橋梁にアプローチする取付道路工事で必要になった新たな用地は約2,900㎡で、相当数の地権者との交渉が必要でしたが、被災後2年間で全ての方に合意をいただきました。地元に入る際は、小野市役所の担当者が同行していただくとともに、地元調整、用地交渉、説明会の準備などに協力していただきました。この協力があったからこそ、早期開通が実現できたのだと感じています。



道路が拡幅したことで、安全性・快適性が向上しました

周辺民家への対策事例



道路につながる緩やかなスロープを設けました



道路との高低差が著しい所では、駐車場を道路の高さに合わせました

これからも愛される橋へ 地域が祝った開通

「粟田橋」の開通は、
地域全体のうれしい出来事として
迎えられました。
たくさんの住民の方が
開通式に参加されました。



幹線道路での 復旧工事のモデルに 平井所長



工事の完成に伴い開催した開通式は感動的でした。500人を超える地元の方に足を運んでいただき、「旧粟田橋」が約80年愛されてきた橋だったことを改めて感じ、関係者への感謝の気持ちでいっぱいでした。仮橋を架けずに行う復旧工事は利用者に迂回を強いるため、非常に難しい決断でした。しかし、結果的には予定の工期を1年早めることができました。今回の取り組みを幹線道路での橋梁の復旧工事の選択肢の一つとして、是非、他の現場の方に参考にしてほしいです。

これから先も 愛される橋へ 宮垣課長補佐

こんなにたくさんの人が来られた開通式はないのでは？！、と思うほどの人でした。地域の人からは「やっとできたね」「きれいになった」という声を聞き、うれしさもひとしおでした。また、車同士、車と自転車のすれ違いの危険もなくなり、安全な道路になったと思います。

100年間使われる橋を作ろうという思いで、今回の工事の計画や地元の方との交渉にあたってきました。これからも地元に愛され、長く交通を支える橋であってほしいと願っています。

センターの技術力とチームワークで早期復旧を支援

センターは、粟田橋の災害復旧支援において、復旧・供用開始を早期に行えるよう、複数のスタッフが業務を並行で行う等、体制を強化して対応しました。また、担当者間では、工事に関する情報の共有やコミュニケーションを図り、技術力とチームワークで早期復旧の一翼を担いました。



技術第1課 村岡副課長
担当：査定設計書作成



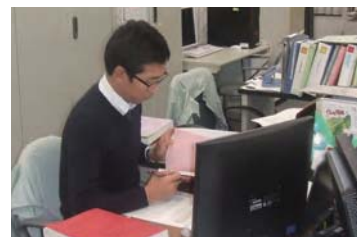
技術第1課 原副課長（現播磨事務所）
担当：積算・工事監理【旧橋撤去工事、下部工工事】



技術第1課 矢代副課長
担当：工事監理【下部工工事】



技術第2課 梅本副課長
担当：積算・工事監理【上部工工事】



技術第2課 沖村副課長（現情報政策課）
担当：積算【取付道路工事】

災害復旧・復興支援／防災減災対策

災害関連緊急急傾斜事業

とく お た に が み ち く ● 徳尾谷上地区急傾斜地崩壊対策工事

丹波事務所

平成 26 年丹波豪雨災害の概要

平成 26 年 8 月 16 日～ 17 日に近畿地方を襲った豪雨により、丹波市内各所で河川の氾濫や土砂が流出し、多くの建物が倒壊・浸水するなど甚大な被害をもたらしました。

特に徳尾谷上地区が位置する市島町前山(さきやま) 地域では、猛烈な豪雨により斜面頭頂部や尾根付近が崩壊、大量の土砂が流出し、死者 1 名を出す重大な土砂災害が発生しました。

徳尾谷上地区の現場は、今回の豪雨災害の中でも、大規模な斜面崩壊による被災現場の一つです。



土砂災害発生時

工事監理の紹介

(担当者) 技術専門員 内藤 正樹

センターは、平成 27 年度より(急)徳尾谷上地区 急傾斜地崩壊対策工事 (A 箇所・B 箇所・C 箇所) の積算及び工事監理業務を受託しました。

センターが携わった三現場はいずれも急峻な斜面で、その中でも最も大規模な崩壊斜面の B 箇所は、資材搬入の他、人員輸送にモノレールを活用するなど、現場条件が非常に厳しい箇所でした。

工事監理では、不安定土塊の掘削工や法面整形工(SSD 工法^{※1})、鉄筋挿入工(無足場工法)での安全管理、吹付法砕工(ユニラップ工法^{※2})の品質管理に注意を払い、平成 28 年 7 月末に工事が完成しました。

平成 28 年 9 月現在、丹波市内全体では、災害復旧工事の約 8 割が完成し、センターは、一日も早い災害からの復旧・復興に向け、今後も各種支援に取り組んでまいります。



モノレールでの人員輸送



法面整形 (SSD 工法)



吹付法砕工 (ユニラップ工法)



工事完成後

※1 SSD 工法：斜面安全掘削工法

※2 ユニラップ工法：長距離・高揚程材料圧送工法

海岸緊急防災・減災対策事業

● 尼崎西宮芦屋港 鶴町地区防潮堤耐震対策工事

阪神事務所

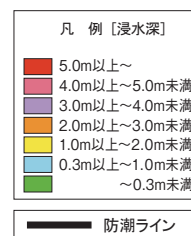
海岸緊急防災・減災対策事業の概要

尼崎地区の防潮施設には、背後に人口・資産が集中するゼロメートル地帯が控えているため、高い耐震性が求められます。今後、想定される最大クラスの地震により防潮堤の機能が損なわれると、津波により甚大な浸水被害につながる可能性が高く、一度浸水すると排水処理等に長時間を要し復旧に困難を極めることが予想されます。

そこで県では、津波防災インフラ整備計画を策定し、浸水被害軽減対策に取り組んでいます。



対策前後の浸水想定区域図

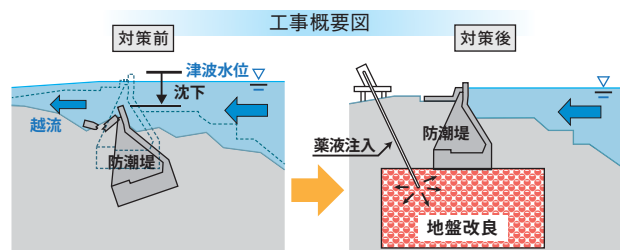


工事監理の紹介

(担当者) 阪神事務所 技術専門員 松岡 裕

センターでは、津波防災インフラ整備計画で「沈下対策工事の先導的実施区間」として位置づけられた尼崎閘門西側の鶴町地区のうち、最初に着手した区間(延長180m)の工事監理を受託しました。

本工事の主たる工種である地盤改良工には、「浸透固化処理工」が採用されました。これは、液状化が予想される砂質地盤に対して、薬液を浸透注入することにより地盤を低強度固化し、液状化を防止する工法です。注入する薬液には、長期的に劣化の原因となるアルカリ成分を除去した水ガラス系の材料を使用し工事が進められました。



削孔状況



注入状況立会い

本工事は、地盤改良状況等を目視で確認することができません。そのため、頻繁に現場立会を実施し、出来形(削孔長、薬液注入量等)及び品質(薬液配合管理等)を確認することに努めました。

また、施工後は、事後ボーリングを実施して改良土を採取し、室内試験により改良後の強度を確認しました。

まちづくりと文化財調査の総合支援（揖保郡太子町糸井）

（主）太子御津線とJR山陽本線が交差する「茶ノ木踏切」は、朝夕の通勤時間帯に慢性的な交通渋滞を引き起こすボトルネック踏切となっています。

このため、兵庫県では、円滑な交通の確保と踏切事故の防止を図るために、立体交差（茶ノ木跨線橋）によるバイパス整備を進めています。（都市計画道路 龍野線）

センターは、このバイパス整備に関連して進められている「中播都市計画事業 JR網干駅西南土地地区画整理事業」と「鍛冶田遺跡の発掘調査」を支援し、社会基盤の整備、開発と文化財の調和に寄与しています。

中播都市計画事業

● JR 網干駅西南土地地区画整理事業

まちづくり推進部

まちづくりの経緯

本地区は、JR山陽本線網干駅の西南側約250m、太子町の南東端、姫路市との行政境に位置する面積約5.6haの地区です。

地区東側に都市計画道路龍野線（以下、龍野線）が計画されており、その整備と一体的にまちづくりを図るため、姫路市、太子町及び地元協議会が平成4年からまちづくりの様々な検討を重ね、平成13年から龍野線の一部を含む本地区で土地地区画整理事業の事業化への取り組みが進められました。

センターでは、区画整理事業調査、都市計画決定図書や組合設立認可申請書等の作成を受託するとともに、地元の合意形成を支援し、平成24年11月に土地地区画整理組合の設立認可を受け事業がスタートしました。

隣接する竹広南地区は、センターの市町支援制度※を活用して地区計画の素案づくりを行い、本事業と併せて平成24年3月に市街化区域編入や地区計画等の都市計画決定を行いました。

※【市町まちづくり推進調査支援制度】

センター職員が市町と協働のもとまちづくり調査等を行い、まちづくりの推進を支援する制度です。なお、市町の費用負担はありません。

土地地区画整理事業の概要

本地区の土地利用計画は、太子町都市計画マスタープランや、周辺での土地利用状況などから、良好な居住環境を有する中低層住宅地として計画しています。



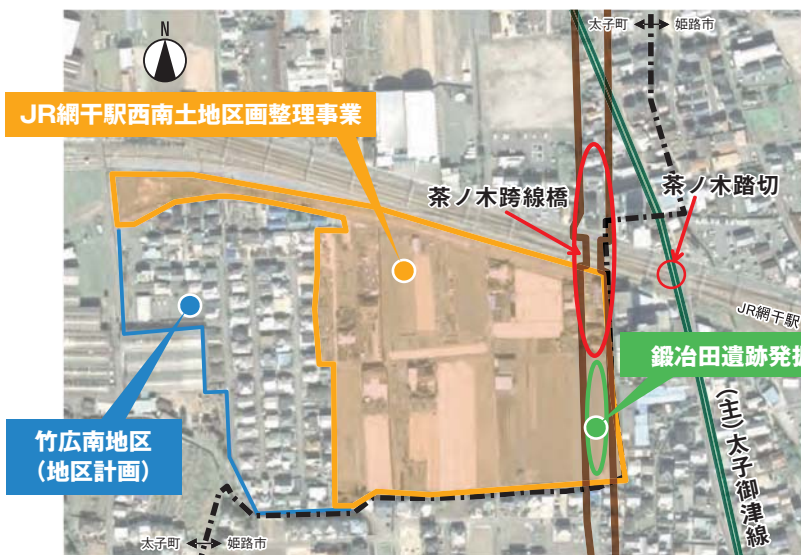
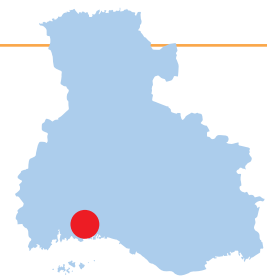
JR網干駅西南土地地区画整理事業 設計図

事業費は約6.2億円、そのうちの保留地処分金の早期確保に向け保留地を集約し、一括処分等の多様な需要に対する配慮を行っている。

仮換地指定、埋蔵文化財調査を経て、平成28年10月から本格的に工事に着手しています。事業完了後には、駅周辺の活性化による地域創生が期待されています。

事業実施による効果

- ① 良好な住環境を有する市街地形成を図り、駅周辺の利便性を活かした活力あるまちを創出します。
- ② 地区内の龍野線用地を換地手法により確保したので、立体交差によるバイパス整備に早期着手できました。
- ③ 住環境が悪化していた竹広南地区にも本事業と併せて地区計画を定め、良好な住環境を一体的に形成します。



茶ノ木跨線橋の建設技術支援

センターは、「まちづくりと埋蔵文化財調査の支援」のほか、茶ノ木跨線橋の積算・工事監理も支援しています。

積算業務：跨線橋上部工（JR南）

プレテンT桁2径間L=47m

工事監理：跨線橋下部工（JR南）3基

鍛冶田遺跡の発掘調査

埋蔵文化財調査部

発掘調査の概要

バイパス整備に伴い、鍛冶田遺跡の記録保存のための発掘調査を実施しました。

鍛冶田遺跡は、掛保川の東に広がる平野にあり、周辺は水田や住宅地が広がる平坦な場所にありますが、当時は起伏のある微高地（自然堤防）の上に立地していました。発掘調査は平成27年度と28年度に、事業用地内の約4,000㎡で実施しました。

調査の成果

縄文時代晩期・弥生時代中期・古墳時代中期～後期・平安時代後期～鎌倉時代の4時期にわたる遺構が数多く発見されたほか、収納用コンテナ500箱以上の多くの遺物が出土したことから、鍛冶田遺跡が西播磨における大規模な集落遺跡のひとつであることがわかりました。

特に注目されるのは、調査区南端部の低湿地部で見つかった縄文時代晩期に遡る可能性がある水田です。これまでの研究で、縄文時代晩期には西日本に稲作が導入されたことがわかっていますが、この時期の水田遺構としては西播磨地域で初の事例となりました。



調査区の全景 縄文時代晩期の水田跡、弥生時代・古墳時代の竪穴住居跡合計36棟、平安時代～鎌倉時代の掘立柱建物跡30棟以上など、多くの遺構が見つかりました。

調査成果の公開

開発事業によって消滅してしまう遺跡の調査成果を広く公開するため、平成28年9月に現地説明会を行い、250名の見学者の来跡を得ました。また平成28年7月には、遺跡を身近に感じ、遺跡の保護に理解を得る機会として、小中学生の親子50名による「遺跡発掘体験～掘ってみよう昔の遺跡～」の事業を初めて開催し、大変好評を頂きました。



川の跡に捨てられた弥生土器 旧河道の中からは、コンテナ数百箱分の土器が出土しました。そのほとんどは、周囲の集落から捨てられたものです。



夏休みには、22組50名の親子が発掘体験を楽しみました。

やってみよう!! ひょうごの景観まちづくり

● 第4回ひょうご景観まちづくり交流会

まちづくり推進部

センターでは、県土の良好な景観形成を推進するため、修景行為に対する助成及び景観形成活動等を支援しています。平成25年度からは、各地で景観形成の推進に取り組む住民団体等が一堂に会して、情報交換・親睦を図る「ひょうご景観まちづくり交流会」を開催し、地区住民のみなさんが一体となって取り組む景観まちづくりを支援しています。

平成28年7月3日(土)に洲本市で開催した「第4回ひょうご景観まちづくり交流会」について報告します。

洲本市中心市街地の本町界隈は、城下町の面影を残す街割、各所に点在する町家、武家屋敷の名残の建物や庭園、西側には寺町も残っているところです。

この本町の一角、路地のような通りで、春と秋に「レトロなまち歩き」が開催され、土日の2日間だけで3万人を超える来場者でまちがあふれます。

本交流会は、このような取り組みが行われている洲本市本町界隈と洲本市文化体育館を会場に開催しました。

まち歩き

午前は、まち歩き。本町界隈を洲本城下町再生委員会とひょうごへリテージ機構(H²O) 淡路地区のみなさんの案内で、タウンウォッチを行いました。



本町界隈でのまち歩きのようす
「レトロなまち歩き」をきっかけに空家に出店した店舗などを視察。

午後は、洲本市文化体育館を会場に、各地の景観まちづくり活動の紹介、交流ワークショップを行いました。

各地の活動報告

まちづくり活動の紹介は、城下町再生委員会の野口代表から「レトロなまち歩き」について、神河町の真弓氏から同町の古民家再生・空き家活用の取り組みについて、養父市の岡氏から同市大屋町大杉地区の古民家と景観形成の取り組みについて紹介いただきました。



各地の活動紹介(コーディネーターは兵庫県立大学 宇高雄志教授)

つぎに、ひょうごへリテージ機構(H²O) 淡路地区の酒井氏から淡路地域の歴史的な建物等の紹介をいただきました。

交流ワークショップ

交流ワークショップは、本交流会のメインイベントです。

グループディスカッションは、8班に分かれ、4つのテーマについて、意見交換を行い、限られた時間で様々なアイデアがでました。また、新たな気付きもありました。



交流ワークショップ(ファシリテーターは浅見雅之氏(人・まち・住まい研究所) …背景は今回のディスカッションのテーマ)

最後に、今回の交流会のメインテーマ「やってみよう! ひょうごの景観まちづくり」のまとめとして、みなさんにそれぞれの「やってみる宣言」を表明してもらいました。

やってみる宣言(抜粋)

- 景観が他のテーマのまちづくりにどう関わっているのかをもっと深く考えます
- 自分の住むまちの地域資源をみつめます
- まちなみづくりの育成情報をやりとりします
- Uターン就職をして地元の空き屋を減らす方法を考えます
- 私は「まちづくり」を実現する途続けます …など



カードに書いた「やってみる宣言」

今回の交流会は、景観まちづくり団体、行政担当者、景観・まちづくりの専門家や研究者・学生さんなど、これまでで最高の89名の参加により大いに盛り上がり、活発で有意義な意見交換をしていただくことができました。講師・報告者・参加者ほかご協力いただきました皆様に改めて感謝いたします。

維持管理に関する技術やノウハウを伝授！

● 下水処理場維持管理セミナー



下水道事業部

セミナーの開催状況

平成28年9月28日（水）に県内市町の下水道事業に携わる職員を対象として、揖保川浄化センター及び兵庫西スラッジセンターにて、下水処理場維持管理セミナーを開催しました。



セミナーには県内11市町から計31名の参加があり、熱心に聴講及び施設見学をして頂きました。参加頂きました皆様、ありがとうございました。

セミナーの目的及び内容

センターが兵庫県から受託している下水処理場の維持管理の歴史は、本年度で32年目^{*}になります。

そこで、センターがこれまでに培ってきた維持管理に関する技術やノウハウを、市町における維持管理業務に役立てて頂くことを目的として、センター設立20周年の区切りに合わせて当セミナーを企画・開催しました。

下水処理場の維持管理は、包括的民間委託等により、民間の持つ技術やノウハウを積極的に活用して、より効率性を求めることが主流となっています。

このため、センターが導入している包括的民間委託を初めとして、水質管理を中心とした運転管理や電気・機械設備の点検・修繕などの保全管理をセミナーの講義テーマとしました。

また、施設見学では、参加者の知見の幅を広げられるよう、全国的にも珍しい処理設備を中心に見学ルートを設定しました。



全国的に珍しい汚泥溶融処理設備と酸素発生設備

※（財）兵庫県下水道公社からの通算

下水道の維持管理に関する支援

下水処理場の維持管理には、その下水処理場の特徴や委託形態に応じた様々な技術や知見が必要となります。

センターでは、下水道に関する技術講習会や市町からの問い合わせ専用窓口（ワンストップ相談窓口）などにより、下水道に関する技術や知見の水平展開を行い、県内市町における下水道の維持管理が持続・向上することを支援しています。



講義や施設の説明を行うセンター職員

CONTECH マスコット 風



加古川市シンボルキャラクター
ウェルビー



小野市ハートフルウォーキング
マスコットキャラクター
ウェルビ&ハッピー



豊岡市マスコット
玄さん



丹波市マスコット
ちーたん



姫路市キャラクター
しろまるひめ



神戸市北区マスコット
キタールさん



播磨町マスコット
いせきくん・やよいちゃん



淡路市マスコットキャラクター
あわ神
© 淡路市 第160015号



兵庫県マスコット
はばタン



あまらぶマスコット
あまっこ



西宮市観光キャラクター
みやたん
(無) 第2016152号

ワンストップ相談窓口

078-367-1228



公益財団法人 兵庫県まちづくり技術センター
Hyogo Construction Technology Center for Regional Development

〒650-0023

神戸市中央区栄町通 6-1-21 (神明ビル 5・6F)

TEL 078-367-1230 (代) FAX 078-367-1232

E-mail info@hyogo-ctc.or.jp URL <http://www.hyogo-ctc.or.jp>

兵庫CTC

検索

◆お問い合わせ先◆

記事の内容に関することやご意見がございましたら、下記までご連絡下さい。

〈企画部 企画調整課〉 TEL : 078-367-1224

平成29年1月発行 (年2回発行) 通巻49号

編集協力 株式会社メディックス

1606 企1A4